

わたしたちが広島で感じたこと

平和記念式典会場や灯籠を流した元安川には、人種を問わず沢山の人が集まっていて、これだけの人が平和という同じ想いを持って集まっている、という事にとっても感動しました。証言のつどいでは、原爆の様子をありのままの姿で知る事ができました。その中で「何があっても死ぬまで決してあきらめない」という言葉をいただきました。この旅で感じた事を元に、自分にできることを考え、実行していきたいです。



築島 瑚波 さん
東部中学校 2年

広島平和の旅に参加させて頂き、3日間で多くのことを学びました。平和資料館で私が目にしたものは、悲惨な写真や遺品の数でした。また、被爆者の証言を聞き、広島に落ちた1発の原子爆弾が一瞬にして町を破壊してしまったことを知りました。二度とこのようなことを繰り返さないために広島で経験したことを多くの人に伝えていきたいです。



大竹 貴保子 さん
東部中学校 2年

広島平和の旅で参加したイベントの行った先それぞれに、たくさんの人たちが居たことで、こんなにたくさんの人たちが平和を願っているんだと改めて感じました。また原爆資料館で見たもの1つ1つに心を動かされ、原爆は絶対にいけないと感じました。



上條 奏 さん
長峰中学校 2年

広島平和の旅に参加して、原爆の恐ろしさを肌で感じる事ができました。式典では、私よりも幼い子供(小6)もスピーチをしていて、広島の人々の平和への強い思いが伝わってきました。広島で感じた事、学んだ事をまずは身近な人に知ってもらえるようにしたいです。



山口 悠花 さん
長峰中学校 2年

広島平和の旅では平和記念式典に参列したり、原爆被害者証言のつどいに参加したり、なかなかできない貴重な体験をさせてもらいましたが、この体験を多くの人がすれば日本だけでなく、世界の平和を祈る人が増えるのではないかと思います。



名取 陽 さん
永明中学校 2年

原爆という日本の悲劇、過去に目を背けることなく歩いていきたいと感じさせられました。また、この広島平和の旅に行った1人として、日本人の1人として、この過去を知って知らんふりをせず、自分がやるべき事を自覚していきたいです。



中村 日咲 さん
永明中学校 2年

私が1番心に残っているのは、「8・6証言のつどい」に参加した時のことです。当時の生活や思いを直接聞くことができ、とても良い経験になりました。また、原爆ドーム付近を歩いている時、「ここで泣いている子がいたんだろうな」と思うと心が痛みました。資料館に行った時は、ボロボロの衣服などがあり目頭が熱くなりました。広島に行って平和への思いがより強くなりました。



今井 莉南 さん
北部中学校 2年

今回、広島平和の旅に参加させていただいて、広島雰囲気や人々の想いを肌で感じる事ができました。そして、平和記念式典では、世界中の人々と同じ瞬間、同じ場所で戦争を知らない人も特別な想いを抱えている人も世界中から集まり、平和を願うことができてよかったです。



蘆川 真璃 さん
北部中学校 2年

広島平和の旅

茅野市では、非核平和事業の一環として、市内の4中学校の2年生を対象に非核平和への想いを作文にいただき、最優秀賞に選ばれた8名を8月に広島へ派遣しています。
旅の様子と8名の中学生が旅を通じて感じたことや平和への想いをご紹介します。

平和記念式典

8月6日、平和記念式典に参列しました。厳粛な雰囲気の中で慰霊碑へ献花をし、原爆が投下された午前8時15分には、平和への祈りと被爆者への慰霊の念を込めて、黙とうを捧げました。



原爆被害者証言のつどい「8・6証言のつどい」

被爆者の方から、被爆当時の広島市内の様子や、友人や家族を亡くしつらい思いをしたこと、今も原爆の後遺症に苦しみながら生活されている方が大勢いることなどをお聞きしました。



原爆ドーム



灯籠流し

平和への願いを込めて灯籠を制作し、灯籠流しに参加しました。



原爆の子の像

市内の中学生や市民の皆さんに折っていたいた千羽鶴を平和記念公園の「原爆の子の像」に捧げました。

